



我孫子市長
星野 順一郎

我孫子市は、昭和45年7月に千葉県で22番目の市として誕生し、令和2年7月1日、市制施行50周年を迎えました。

これまで、本市に誇りと愛着を持ち続け、豊かな自然を守り、先人達が築き上げてきた文化遺産や伝統を受け継ぎ、我孫子市の発展にご尽力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、記念事業や式典の延期、多くの協賛事業が中止になりました。

7月1日には、名誉市民のプロゴルファー青木功さんや作家の上橋菜穂子さん、ふるさと大使のナイツの埴宜之さんをはじめ、様々な分野でご活躍されている本市ゆかりの方々から我孫子市への熱い思いが伝わったエールをいただきました。

本市には、市民の皆様や市にゆかりのある多くの方に支えられ、積み重ねてきた50年の物語があります。

令和3年から次の50年の物語づくりが始まります。

子ども達や若者達が夢や希望を持てる魅力あふれるまちづくりを進めるとともに、本市が誇れる、心癒される手賀沼の水辺空間、白樺派をはじめとする文人達が残した文化遺産、先人たちが残してきた歴史・文化、伝統という財産を未来へ引き継ぐため、1ページ1ページ歩みを進めてまいります。



我孫子市副市長
青木 章

市制施行50周年という記念すべき年を、市民の皆様とともに迎えられたことを大変うれしく思いますとともに、これまで地域や市民の暮らしを支え、我孫子市の発展に寄与された多くの市民、先人の皆様に心から感謝申し上げます。

市制が施行された2年後の昭和47年に我孫子市に奉職し、以来48年の長きに渡り我孫子市とともに歩んでまいりました。

我孫子市の魅力は、「時代が経っても変わらない、人々を魅了する豊かな自然」と「お互いを思いやる人と人との優しい関係」です。

50年の歴史を振り返りますと、初期は、土地区画整理事業や民間大規模開発による急激な人口増でした。人口増加率が日本一の時もあり、街の姿は大きく変貌しました。また、手賀沼の汚濁という不名誉な日本一を27年間も続けたことにより、昔の手賀沼を取り戻そうとする市民活動は大きく発展し、全国的にみても市民活動が盛んなまちとなりました。我孫子市のシンボルである「手賀沼の再生」は、市を挙げての大きなテーマであり、「山階鳥類研究所の誘致」や日本で唯一の「鳥の博物館」、「手賀沼親水広場 水の館」の建設など魅力あふれる施設を開館し、「自然保護の啓発」とともに、まちに魅力と活力を生み出してきました。一方で、平成23年の「東日本大震災」や台風・ゲリラ豪雨による「水害」などの災害にも見舞われましたが、その都度、市民との協働のもと「お互いを思いやる優しい心」と「熱い郷土愛」で復興してきました。

これからも、「時代が経っても変わらない豊かな自然」と「我孫子ならではの人と人との優しい関係」を次代に引継ぎ、さらに魅力溢れる我孫子市を築いてまいります。



我孫子市教育委員会
教育長
倉部 俊治

我孫子市が節目の年を迎えるにあたり、これまでのあゆみを振り返る記念誌が発刊されますことは、大変意義深く、50年という歴史の重みを感じます。

市では、「子どもの創造性と自主性を育む教育の充実」を目標に、小中一貫教育を通じて、「ふるさと我孫子を愛し、誇りに思う子ども」、「確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども」、「自分に自信を持ち、自他を大切にできる子ども」を三本の柱として義務教育9年間をつなぎ、社会に貢献できる大人となるための基盤である、たくましく生きる力を育てています。こうした取り組みを通して、我孫子に生まれて良かった、我孫子に住んで良かったと思える魅力ある教育の実現に取り組んでいます。

記念誌には、市内小中学校の航空写真が掲載されており、それぞれの学校が工夫を凝らして作った人文字の作品が並んでいます。各校の個性あるデザインからは、子どもたちの母校に対する愛着が伝わってきます。この記念誌を通して、子どもたちの心のなかに、ふるさと我孫子を愛する気持ちが芽生えてくれることを願っています。

結びに、記念誌の製作にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後も市制施行60年、70年を目指して、子どもたちと共に我孫子市のさらなる飛躍と発展に努めてまいります。

目次

ごあいさつ.....	2	空から見る我孫子市.....	12
我孫子市のこと.....	4	我孫子市の小学校・中学校.....	20
我孫子市のあゆみ.....	6	手賀沼のうなぎちゃん.....	25
市制施行50周年記念事業.....	8	あとがき.....	28
我孫子市をPR!.....	11		

